



つゝじヶ丘だより東京

つゝじヶ丘同窓会東京支部会報

発行 函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部 会長 佐々木 太郎
〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215 TEL・FAX 03-5609-9881
メールアドレス <jimu@td-tokyo.com>
印刷所 三美印刷株式会社 題字 細見 紀子(14回生)



ホームページURL; <http://www.td-tokyo.com>

「会報 20 号」の発行にあたって

会長 佐々木太郎（14回生）



会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。つゝじヶ丘同窓

会東京支部ができたのは、高女の同窓会に西高の同窓会が合流して第1回総会が開催された昭和60年、今から33年前のことです。しかし、支部の会報はそれから20年近くたって、平成15年に創刊されました。最初は17回生の高橋順吉副会長(当時事務局長)を中心作っておりましたが、平成22年の第6号から組織的な体制をとるようになりました。

私はその時以来会報作りに携わっております。事務局や広報部の協力により編集体制の強化が図られ、平成24年から年1回を2回発行することにしたほか、平成25年からは紙面をカラー印刷にするとともに、総会時に発行する会報は総会の出席者に配布し、総会プログラムと兼用するようになりました。総会の欠席者にはのちに郵送で送付するようにしたのです。さらに過去に発行

された会報をPDF化して東京支部のHP (<http://www.td-tokyo.com>) からいつでも閲覧できるようにしました。

同窓会は同期会の集合体であるというのが私の持論ですが、支部の総会が2年に1度なので、総会の合間に行われている同期会の活動を支援する必要があると考え、各学年が行う同期会に対して支部から補助金を交付するようになり、「同期会だより」の記事が集合写真とともに紙面の大きなスペースをとるようになってきております。また、函館在住の方からの寄稿、投稿もなるべく紙面に取り入れるようにしております。

この会報が今号で第20号を迎えることとなり、感慨深いものがあります。事務局では、会報が会員と同窓会をつなぐメディアとして重要な役割を果たせるよう、今後とも読みやすく同窓生の親睦にお役に立てるものにしていきたいと考えております。

ところで、函館では来年度から函館稜北高校と再編統合されて新設される高校の開設計画に余念がないようです。すでに決定されていることは、校舎は函館西高のものを使うこと、西高の在校生はそのまま新設高校に移行すること、6月30日に保護者・中学教員に向けて統合新設校の方針や新制服についての説明会が実施されることなどです。今年秋には校名が決定され、八幡坂

の上にある校舎に通う生徒の定員が1学年3クラスから6クラスに増えることになります。

平成が終了するとともに函館西高は新しい学校に生まれ変わるわけですが、人口の減少により函館西部地区では小学校、中学校とも一つずつに統廃合されてしまいました。西部地区唯一の高校となる母校に、我々の後輩たちが元気で伸び伸びと学ぶことを願ってやみません。

つゝじヶ丘同窓会 東京支部 第18回総会・懇親会

日時 平成 31 年 5 月 11 日 (土曜日) 予定
午前 12 時受付・13 時開宴
場所 東京都文京区 椿山荘 4F 雅
会費 10,000 円

◆ 投稿

故三村治子先生との出会い

高橋秀演（4回生）



西高二九
会・平成29
忘年会の席
に故三村治
子先生の遺
作画集を持

参し、皆さんにお見せしようとした所、「三村先生ってどんな人？男先生？がっちりした人？」と逆質問され、私の方が吃驚。画集を引つ込め、つつじヶ丘同窓会事東京支部事務局に寄贈することになりました。

それ程先生は遠い人になってしまわれたのです。無理もない「化学」と言う教科は皆さんお嫌いだったから、化学の先生の事も記憶に残らなかったのでしょう。私にとって三村先生は部活の指導者であり、今の人生に導いて下さった恩師でもありました。西高では「化学部」に所属しご指導を戴きました。文化祭に展示する為、味の素（グルタミン酸ソーダ）を合成する事になり、大量の小麦粉を練りに練ってグルテンを作り、合成実験に挑戦したので

す。反応が終わるまで帰れないので理科室に残り続けました。

トイレに行く為、真つ暗な廊下を歩いていると誰も居ないのにひたひたと足音が聞こえて怖かった思い出があります。学校怪談を実感しました。先生は付き合ってた下さいました。結果は、ビーカーの底に白い小さな結晶が、一つ、二つ、三つと数えられる程度の味の素を合成し展示したのです。また、化学部全員で七飯の焼酎工場を見学に行つた折、会議室でワインをご馳走になり赤い顔をして帰ってきた事がありました。高校生で未成年の飲酒です。今なら、新聞沙汰になり先生方も無事では済まされなんでしょう。でも、誰もお咎めなしでした。古き良き大らかな時代だったのです。

私は北大をドツペリ、先生のご指導で国立の二期校に進みました。でも1年生前期終了の頃、どうしても北大に入りたくて退学し再受験しようと思いました。所が、担任だった

三村治子
遺作画集

BeeBooks



堺先生と三村先生から「何を考えているのだ！そのまま残って勉強しろと！」「こつぴどく叱られ、仕方なく残って、工学部の応用化学科に進みました。三村先生が病気になる入院なさっていると聞き、帰省のおりお見舞いに行こうとしたら、先生から「こんな醜い姿を見せたくない。絶対来ちゃ駄目」と叱られました。今もって残念でたまりません。生前にお礼を言えなかった事が一生の不覚です。

先生がお亡くなりになられた際、ご舎弟様にお悔やみをしたからでしようか三村先生の遺作画集を頂戴したのです。先生が絵を描く事などは全く知りませんでした。

治子先生をご存知の方々に画集を見て頂けたら天国で先生はきつと満足なさって居られることと信じています。優しいほのぼのとした先生の性格そのものの絵をご鑑賞ください。

「北海道」命名150年

三村寿雄（13回生）



かつて蝦夷地と呼ばれていた地が、

2年に「北海道」と命名され今年（2018年）で150年を迎えました。最上徳内、近藤重蔵、伊能忠敬など蝦夷地探検を行った歴史上の人物が教科書には多数掲載されていますが、明治政府が蝦夷地に変わる地名の候補を「松浦武四郎」に求めたのか？「北海道」の名付け親について調べました。

松浦武四郎は江戸時代の終わりにから明治にかけ活躍した探検家で、1818（文化15）年に伊勢国一志郡須川村（現在の三重県松阪市小野江町）で生まれました。蝦夷地に渡ったのは1845（弘化2）年28才の時、長崎でロシアが勢力を広げるために蝦夷地を狙っている事を知り、日本の危機を感じた武四郎は自ら蝦夷地を調べようとする多くの人に伝えようと決意し、以降1858年までに計6回の探検に訪れました。

1845年（弘化2年）第1回蝦夷地探査 函館、森、有珠、室蘭、襟裳、厚岸、知床、根室等。

1846年（弘化3年）第2回蝦夷地探

査 江差、宗谷、樺太、紋別、知床、石狩、千歳等。

1849 年(嘉永 2 年) 第 3 回蝦夷地探查 函館から国後島、択捉島へ渡る。

1855 年(安政 2 年) 江戸幕府から「蝦夷地御用御雇入」の命をうける。

1856 年(安政 3 年) 第 4 回蝦夷地探查 函館、宗谷、樺太、根室、様似、有珠等。

1857 年(安政 4 年) 第 5 回蝦夷地探查 函館、石狩、上川、手塩等。

1858 年(安政 5 年) 第 6 回蝦夷地探查 函館、石狩、宗谷、北見、十勝、阿寒、日高等。

1868 年(慶応 4 年 / 明治元年) 明治政府から「箱館府判官事」を命じられる。

1869 年(明治 2 年) 6 月に「蝦夷開拓御用掛」、7 月に「開拓大主典」、8 月に「開拓判官」を拝命、叙従五位を受ける。7 月 17 日に明治政府から蝦夷に代わる名称の候補を求められて、「北加伊(きたかい)道」「日高(ひたかみ)道」「北海道」「海東道」「東北道」「千島道」の 6 案を提示し、8 月 15 日大政官布告により「北海道」と命名されました。

第 5 回蝦夷地探查時手塩川流域を調査した際に出会った、アイヌの長老アエトモから「カイ」という言葉には「この地で生まれたもの」「自分達の土地」という意味があると教えられたと、幕末に出版された「手塩日誌」に記されており、「北加伊道」にその意味を込めたとされています。



1888 年(明治 21 年) 2 月 10 日 東京神田五軒町の自宅にて逝去(71才)。遺骨は染井霊園の 1 種口 10 号 2 側に埋葬されています。

3 回目迄の探查は、一探検家として蝦夷地を探索し多くの報告書や地図をまとめました。それを評価した江戸幕府は、武四郎を雇い入れ 4 回目以降は幕府の命を受け探查の任務にあたりました。その際、武四郎は蝦夷地で暮らすアイヌの人々の協力を得て、寝食をともにする中でアイヌ文化に触れ、その文化や生活を紹介することにも力を注ぎました。

高官として北海道開拓及び統治に尽力しましたが、政府の方針に納得がいかず 1870 年(明治 3 年)役人を退官、従五位も返上してしまいました。松浦武四郎が理想とする北海道は、蝦夷地探查の際に世話になったアイヌの人たちも、安心して暮らしていける地にすることでした。

しかし、実際は松前藩や商人たちによる過酷な支配が進み、アイヌの人たちは土地や自治を奪われ、悲惨な状況に陥ちいる状況になり、自分の意向が受け入れられないもどかしさから役人を辞める決意をしたとの事です。

アフリカ・ケニアに生きて 47 年 波瀾万丈の軌跡 ①

岸田信高(11 回生)

岸田さんは大学 4 年でアフリカに渡り、宝石鉱山の経営に従事。同級生の恩田昭二さん主宰『なんこつ通信』(2014.10 発行)に寄稿した随筆を要約して 3 回の予定で連載する。

旅立ち 48 日間

1967 年(昭和 42 年) 5 月、私は静岡県清水港から、秋田大学鉱山学部海外鉱業研究会の派遣研究生としてエチオピア、東アフリカ、ザンビアの鉱工業資源調査に出発した。自衛隊のカーキ色のシャツに、ブーツバンドの服装、身の回り品のほかに鉱山調査のための道具など 40 kg 近い荷物を携えての旅立ちだった。資金は函館ドックや函館市長、鉱山会社、商社などを、自ら回って集めた 300 万円近い寄付金である。

まず船賃 2 万円の鮪輸送船でマレーシア(ペナン)を経由し、インド洋の島国モリシャスへ。そこからフランス客船に乗り換え、マダガスカル、コモロ諸島を経てケニア・モンバサ港に着く。さらに、汽車で首都ナイロビへ出て、今度は空路、最初の調査国であるエチオピア・アデイスアベベに到着した。清水港を出

港してから 48 日間の長旅だった。

エチオピアの運の始まり

エチオピア政府鉱山省から実習生としての招聘状を貰っていたので、早速、鉱山省の副大臣に面会。最初はオフィスでの勤務で、銅鉱ボーリング調査が行なわれていたエリトリア地方のデバロア銅鉱山で、オーストリア人の助手として 1 ヶ月程働く。鉱床の中央を川が走っていて開発難度は高いが、川の両岸には豊かな銅資源が埋もれていることが分かった。

その後、エチオピア国営製油工場、日本合弁企業などを見学し、再び鉱山省に戻り、ボーリングコアの分析結果などを報告。世話になった丸紅商社エチオピア支店にも情報を伝えたのは、今後の開発に繋げるためだった。丸紅支店の行動は早かった。グループ企業の同和鉱業より地質技師が派遣され、私はアシスタントとして採用されることになった。大卒初任給 2 万数千円の時代に、月給 500 ドル約 2 ヶ月間の採用が決まった。これが私の運の始まりだった。

後日、この鉱山は、日本鉱業を筆頭株主に大手産銅六社とエチオピア政府の共同開発プロジェクトとして稼働する。しかし、1974 年のエチオピア革命でハイレセラシエ皇帝が殺害され、鉱山は閉山された。

エチオピアの調査後、私は思いが

けない大金を懐に、次の東アフリカ調査のためにケニアに渡った。1968年2月末になっていて、大学には帰国延期の手續きをとる。鉱山省の副大臣には、卒業後はエチオピアに戻ってくるように強く奨められた。が、前述したように革命によってエチオピアの王族や政府高官はすべて追放され、その多くはアメリカやヨーロッパに亡命している。

タンザニアの宝石の宝庫

東アフリカではケニア、ウガンダ、タンザニア3国の鉱山や化学工業などの見学と資源調査、さらに日系合併企業の調査などを行なった。

その後はタンザニアに入国。この国はニエレレ初代大統領のアフリカ社会主義政策で各省庁が協力的で、鉱工業関係の見学依頼の紹介状や資料などを積極的に提供してくれた。タンザニア全土における鉱物標本やサンプル採集の許可も下り



た。

アルーシャの町に滞在中、ポーランド人の宝石店があった。立ち寄ってみると様々な宝石鉱物の原石やカット石が並べられていた。ある日、知り合いになった男が汚れたハンカチーフから取り出したのはルビンの原石。「売りたいが、自分が交渉すると安く値切られるから売ってほしい」という。快く引き受けて店のポーランド人と交渉するも、「不透明なので買えぬ」という返事だった。男はいかにも残念というしよぼくれた顔をしたが、家にはもつとたくさんのお原石があるから見てくれ」という。この1件で、私は「この国は宝石の宝庫だ」と直感した。

宝石王になつてやるぞ

タンザニアでは、念願のキリマンジャロ登山も決行した。登頂に成功後、「宝石王」と呼ばれているギリシャ人が経営する鉱山を訪問する計画を立てた。近くの村までバスで移動し、約20kmある鉱山までは歩くことにした。鉱山主のジョージに鉱山局の招待状を見せ、見学許可をお願いしたが、良い返事はなし。彼は苦勞を重ねてこの鉱山を開発し、ヨーロッパやアメリカからも見学者が押し寄せるが、一度も許可したことはないという。どんなに頼み込んでよい返事はなし。おまけに私が腰にぶら下げている上等のハンマーを欲しいと

いう。見学できないうえに、大切なハンマーまで取り上げられてはたまらなかったが、彼の根気に負けて紫水晶の大きな結晶標本と交換することにした。

無念ではあったが鉱山見学を諦め、「ジョージのような宝石王になつてやるぞ」と、私は一大決心をしていた。

スパイ容疑で牢獄へ

最後に、ザンビアの銅鉱山見学を果たせば、私の調査は終わる。すでに出国してから11か月が経っていた。タンガニー湖を船で横断し、対岸のザイル国(現コンゴ共和国)に渡り、そこからバスでザンビアの鉱山に行く計画を立てた。

船の乗客は十数名。後部座席の二人の男が、「パスポートを見せろ」とスワヒリ語で私に詰め寄ってきた。「あなた方が移民局の役人だという身分証明書を見せてくれ」と言う黙ってしまった。ところが、下船したとたん警察官と思しき連中が私を取り囲み、そのまま警察署へ連行されてしまった。最近、取得したパスポートの顔写真は髭面で、日本出国時の顔写真とは全く違っていた。「これは偽のパスポートだ」。ザックの中身も調べられ、見学レポートの図式を「軍の配置図だろう」と責める。取り調べの結果、私は中国のエスピオン(仏語でスパイ)だということになり、1968年12月2日、軍の収監所に収容されてしまった。(次号に続く)

『森真沙子ファン倶楽部』設立

同窓生のご入会をお願いします

西高11回生の作家・森真沙子さんのファン倶楽部が設立されました。森さんの代表作は、幕末の箱館を舞台にした『箱館奉行所始末』(1、5巻)をはじめ、山岡鉄舟を主人公にした『時雨橋あじさい亭』(1、3巻)など多数。発起人であり、ファン倶楽部会長は同期生の岸田信高さん。会長と森さんのご挨拶は、開設されたホームページでご覧ください。



11 回生、森真沙子氏と岸田信高氏

だ。森真沙子ファン倶楽部で検索できます。

●入会申し込みはホームページかまたはハガキで。入会金、会費など一切不要。氏名、住所、電話番号、あればメールアドレスも記載。

*問い合わせは、〒183-0012 東京都府中市押立町 1-34-1-3-501 井田幸子宛。 ☎090-7724-6311

◆ 寄稿 失われた青春の軌跡(1)

松田 守正 (2 回生)

私は間違いなく函館西高校第 2 回生である？

何故疑問符が付されているか。私は家庭を持ち、男児に恵まれ一粒種の我が子が小学校に入学するまで：自分の中学生時代から高校生時代の記憶がすつぽりと抜け落ちていたことを自覚する機会がなかった。函館中学校時代の友が息子の小学校入学祝に訪ねてこられてそのことを自覚して愕然とした。

そもそも私は、学問に関し不思議な偶然の一致がある。幼稚園・小中高各学校の卒園・卒業式に参列したことが一度もなく、学校以外での体験や雑学が私の人生の道標になっているのでは？と。

私の母は秋田県仙北郡の貧農の出。小学校にも行かせてもらえず年期奉公に出され、生涯文字を読み書きすることナシに 93 歳の生涯を送るでも。いや！それが故に、一流大学卒業生にひけをとることなく持味をフルに発揮し、社会に貢献できた一生涯だった。

太平洋戦争後、港を埋め尽くしたアメリカ第 7 艦隊の艦船から上陸してきた『進駐軍』と呼ばれた占領

軍の本部に招かれた函館市のメンバーに名を連ねた両親。和服姿の母にパーティーの席で司令官夫人から声がかかり英語をまったく解せぬ母が、笑顔でにこやかに対応しびつくりしたと父から聞いたこともあった。その後、無学な母が夫人から懇願され通訳を務めたのは驚きだった。

無学が生んだ【表情と目の輝きを読み取る力】の成せる業なのか。

平成 21 年度『函館市文化賞』を娘（私の妹）藤間扇世が受賞した際には日舞の真髄に足る舞を披露した。

さて、最初の疑問符の訳だが、東京の大学に通学するようになってほどなく、学生運動に関わる他大学の学生が厳しい入校チェックの目を潜り抜け校内に侵入し騒ぎを起こした。その日、私は図書館室から借り出した蔵書を小脇に廊下の角を曲がった。一瞬：上腹部に激しい痛みを覚え、生暖かいものが喉の奥から吹き上がり後ろへ吹っ飛ばされた。そして床に頭を強く打った。

後に知ったが吹き上がったのは胃壁の損傷による吐血。頭は左後頭葉部内出血。多量の血を吐き出して昏倒したらしい。周囲に大勢の学生がいたので受付から本部に連絡。救急車を学部長の判断でサイレンを切つて学内に入れ救急病院へ。以後、私はかなり長い日数を意識不明の状態をベッド上で過ごしたらしい。北海道から駆けつけた母に担当医から病状の説明があり「記憶が何時

どの程度蘇るかは何とも言えない。胃からの吐血は止血できた。後頭部の内出血は、東洋医学の医師の処方箋を診ているが、開頭手術は避けたほうが良いと診断した」母は繰り返し起きる脳発作、その都度少量ながらも吐血。「五感が全て大きなダメージを受けているので、故郷で時間をかけてゆっくり静養なさるのが良いのではないか」母は千葉県に住む叔母の助けを借り被害を受けてから 2 ヶ月後、意識戻らぬままの私を故郷に連れ帰った。

函館に戻ると、記憶が戻る前触れなのか、重なる発作と吐血で痩せ細った手足で看病する母を殴る・蹴る暴行を加え、父の二の腕の肉を食い千切ったりもしたと言う。思い余った両親は、精神科病院に入院させた。ベッドに拘束され四肢の自由を奪われ、一時期は垂れ流しの状態におかれたとか。しかし、人間の再生力は時として凄まじく奇跡を生むことも！肉体を痛めつけられた私が最初に取り戻したのが『声』終始無言。失語症だったのが猛獣のように見えない両眼を見開き唸り声を。それからのほぼ 2 ヶ月の間に、視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚と少しずつではあるが回復したのだ。3 ヶ月たち病院から呼び出しがあり、担当医から説明があった「信じがたいことですが、息子さんの記憶が不思議な回復を見せました。『逆転性の記憶喪失症』つまり、記憶に残っているはずの期間の記憶がすべて消

去され：常識では考えられない幼いころの記憶が再現しておられるようなのです。まだ話しぶりはもとには戻っていませんが、盛んに 2・3 歳の頃のお話を詳細に独言していますよ。

こうして自宅に戻った私は、被害を受けてからの記憶がないままに静養に努めた。しかし、頭痛は治まらず発作は繰り返し返された。函館病院で精密検査をした結果は「左後頭葉に吸収しきれない大きな出血痕があるほか脳幹部に小さな動脈瘤が認められるから予断は許せない」とのこと。

そんなおり熱海市に住む叔母（父の妹）から父宛に手紙が届いた。「主人と熱海市伊豆山浜に別荘を改築して始めた旅荘『松やま』で療養させたら。近くの洞穴から湧き出す『走り湯温泉』を曳いていて脳障害に効能が極めて高い。祖母のやまさんも『脳梗塞の治療』に看護婦さん付きで逗留しているから」私は父に付き添われて早速叔母のもとへと。

（誌面の都合で次号以降につづく）

*（まつだ・もりまさ）

51 年、代用教員、正教員を経て 52 年、学習院大学に編入、現天皇のご学友となった。現在は児童の心身教育のため寺小屋や子供道場などを開催し、ボランティア活動を行っている。80 歳を超えて作家デビュー。月刊「ねこ新聞」などで活躍。祖父・助作は、サルベージ王として名を馳せた人物。

◆函館下町ちよっぴりと昔語り

はごだて昭和「洗濯婆さん・乃木婆さん」だち

函館在住 廣瀬菊枝（16回生）

【洗濯婆さん】

大きな丸い空缶を体にぶら下げ、髪は剃り落とし丸坊主で、歯がない口元でいつも何処かに向かつて笑っていました。

私達が小学校の頃、下校後ママゴト遊びのおきまり場所に急行、いつもの豊川稲荷です。洗濯婆さんも境内の廊下の下や、日当たりのよい灯籠の下に座って、いつも、又何処かに向かつて笑っていました。

私は物心ついた頃から外へ出ると、何処かでもいつも一緒でした。祖父は板金工の貧乏職人でしたが、角地の工場の窓際に陣を取り、火鉢のヤカンから急須に湯を注ぎ、家前を往来・一服する行商人（下駄鼻緒のすげ替え、竿売り、煙管掃除、富山の菓売り、団子屋、飴細工職人、軍艦豆売り、金魚屋、香せんに黄粉売り、寒修行のおばちゃん、大工さん、畳屋さんなど外で働く大人達）勿論祖父のお客様に、粗末なお茶を振る舞うことを楽しみにしておりました。中でも洗濯婆さんは、ゴミ



函館西高の通り（昭和35年）

箱をあさりその日暮らしで在ったので、洗濯婆さんが家前に座ると、祖父は私に饅頭をあげるように云うので手渡そうとするのですが受け取りません。祖父の指示でゴミ箱の上に上げておくと、いつかなくなっているのです。

高校生の時、西高からの帰り道、八幡坂を下り現在の西波止場の角地に水が湧いていて、馬車馬が水を飲む場所でした。お天気が良い時はそこでせんたくばあさんが洗濯を始める訳です。上半身裸、腰巻だけです。洗濯を済ますと乾く間、側の「郵船浜」で泳ぐのですが、ドボンと飛び込みスイスイまるで白鯨泳ぎが上手で、「どこさいくの〜」と叫ぶと、函館ドックを指さすのです。

私が社会人になった昭和40年代前半、冬の猛吹雪の夜、洋裁教室からの帰り、十字街から駅に向かつて

続く電車通り沿い、旧北陸銀行前まで来ると雪山が急に動くのです。「何〜っ」と思ったら、洗濯婆さんが傘をさしてコンクリートの玄関ステップで寝ていたのです。恥ずかしそうにこっちに向かい「ニッツ」と笑うのです。氷点下10度はあったと思います。その後、噂で行政のお世話に成り最後を迎えたと聴きましたが、どんな事情で生涯あのような生活を送ったのかわかりません。いろいろな人生があることを私達に教えてくれていた様な気がします。当時は福祉制度も貧困な世の中、いじめや悪さを受けながらいつても、天を仰いで羅漢様のように笑っていた姿を思い出すたび洗濯婆さんは不幸せの中に幸せを見つけていたのだと思うのです。

【乃木婆さん】

玄関先で呪文のようなお経のうなおばあちゃんの声がして、行つて見ると、白装束の着物に毛筆でお経のような文字を布いっぽいに書き、手甲脚絆に菅笠、手にノボリのいでたちでおばあさんが立っていました。祖父の手から5円か10円を貰いおばあさんの手へ、するとおばあさんは深々と頭を下げ、モグモグとま



乃木婆さんの写真

グとま
文？を
唱え立
ち去つ
ていく

のです。乃木婆さんは乃木將軍の信奉者で、慈善運動家という事を後で知りました。

【体調を崩したホームレスのおじさん】

ある時家に帰ろうと、工場の片隅にムシロを敷いて知らないおじさんがウンウンうなって寝ていました。祖父が具合の悪いおじさんを道端で見つけ家に連れてきて、富山の薬を与え休ませていたのです。私達の晩御飯を少しずつおじさんの口に運ぶ祖父の後ろ姿は、カッコイイなと思いました。

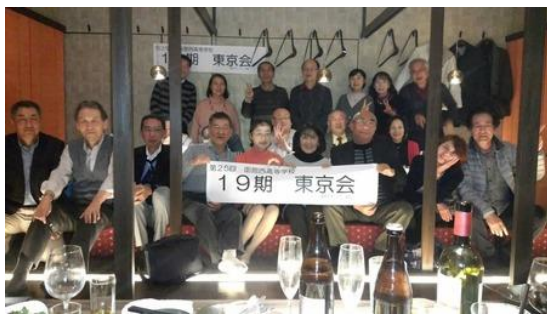
終戦から年月が経っておりましたが、社会保障も何もなく頼る人もないおじさん。祖父は、明治中、祖父の父の代に加賀の国（石川県）の寒村から蝦夷地北海道に渡り苦勞を体験していたおり、祖父の頭には、「明日は我が身」の思いが、常にあつたに違いありません。

このように、我が豊川町界限はいつもいろんな職業の大人、あらゆる階層の人々が、僅か100メートル四方の街の空間に、大金持ちから物乞い乞食（御免なさい差別用語です）の大人達まで、これだけのジャンルの人々の往来を毎日「生ライフ」て？実現・体験出来たこと、そして、その時代に子供であったことで、大人になつてからピンチに遭遇した時、逆に「気合いっ！」が湧き上がり、私の原動力になっていたことが、今更ながら幸運であつたと思う今日この頃です。

◆ 回生だより

19回生「東京会」開催

11月25日、第25回19期東京会を21名参加で行われました。今年のつゞけ丘同窓会以来の10名、昨年24回以来の人、初めて参加の山本君当協会はじめての岡本君、久々の浅



野さんと
楽しく、一
次会では
終わらず、
遂に二次
会はカラ
オケGと
語り合い
Gの二つ
に分かれ、
大いに盛
り上がり
ました。

みんな
いつもの
通り、高校

4 回生「二九会」忘年会

時代に戻って、○○さん、○○君で、
クラスメートになって楽しんでいま
しました。来年も幹事をお願いされち
やいました。(藤谷敏雄)

4回生は今でも年2回同期会を



開いてお
ります。平
成29年の
忘年会は
12月8日
(開戦記
念日だね)
に銀座の
「桃杏楼
(ニュー
トーキョ
ーの系列
店)」で開
催しまし
た。

ガギを60枚近く出しておりましたが、だんだん返信が少なくなり、現在では50枚ほど案内して返信が40数枚まで減ってしまいました。それでも当日は22名（内女性5名）が参加してくれ、遠くは山形、小牧、富士市からの参加者もいました。

既に81、2歳の身では一時間以上電車に乗って銀座へ集まるのは大変ですが毎回これだけの人たちが集まってくれます。

案内の返信ハガキには近況を報告してくれるようお願いしてそれをまとめ、参加者に配り、また欠席の人たちにも郵送してお互いの消息を知り合うようにしております。皆からは「もうそろそろ止めようや」の話しも未だ出ないので、もう少ししばらく続けましょう。（木寺章）

9 回生「箱根」の同期会

春、爛漫の3月、恒例の一泊旅行へ行って来ました。

今年の桜は予想外に早く咲き、3月27・28日はまさに満開で、降り立った箱根湯本は大変な賑わいでした。特に、外国の旅行者が多いのに驚かされました。総勢24名、内函館からは9名参加です。

函館の同期会で会合をいつまで続けるか？のアンケートを取ったら2020年オリンピックの時に80歳になるのでそれまで続けるという意見が一番多かったそうです。名門ホテルの心づくしのおもてなしと手の込んだお料理に気分は上々。二次会では函館からの差し入れの“毛ガニ・イクラ・イカの醤油漬け”等が並び一気に故郷の朝市状態になりました。次の日は登山電車に乗る人、美術館へ行く人、小田原城へ行く人、



く人に分
かれそれ
ぞれ箱根
の桜を堪
能しまし
た。

今年の
函館会は
10月上旬
の予定と
か、又逢
いますよ
う。(徳田
紀美子)

他校同窓会との交流

関東青雲同窓会

会長 佐々木太郎(14)

平成29年5月27日(土)、函館東高の関東青雲同窓会が大手町のサンケイプラザで行われた。総会では役員的大幅な改選が行なわれ、会長に幹事長の横井透氏(30回生)が選出されるとともに、役員全員が50代前半と言うことになりました。懇親会の出席者は会員が159名で、そのうち30回生以下が104名という若い集団で、幹事期の35回生は実に48名も出席しておりました。

東京函商同窓会

学年幹事長 竹澤秀明(17)

平成29年7月8日（土） 函商同窓会に出席しました。例年通り「第一ホテル両国」に出席者は会員113名、来賓9名の計122名で、初参加者は14名が紹介されました。年代も70才代から30才代と幅広い方たちが出席していました。

函工東京支部同窓会

総務部長 三村寿雄（13）

平成29年10月29日 日暮里の「ホテルラングウッド」にて開催された。会員64名、来賓10名で函館本部より学校長小島和明氏(西高26回生で工業高校の電子機械科教諭を経てとの事)が出席。工業高校も少子化、

統合問題で5クラスと決まったとの事です。

白楊ヶ丘同窓会東京支部

学年副幹事長 佐藤雅英(18)

平成29年11月18日(土)午後1時から、「グラントアーク半蔵門」で開かれた。東京支部長は、昭和49年卒(第76期)の白川正広氏で出席者の最高齢者は94歳で、最若年者はこの春卒業の18歳だった。平成生まれの出席は西高にはない光景。出席者は来賓10名を含む175名。平成30年は11月3日(土)で同会場予定。

第4回臥牛会ゴルフ会報告

三村寿雄(13)



4月12日(木)取手桜が丘GCにて中部高・東高・工業高・商業高・西高の同窓会親睦のゴルフコンペを開催致しました。当日は絶好のゴルフ日和、28名の参加者と気藹々のラウンドを楽しみました。成績は我が西高校9回生の森英彌さんの優勝、準優勝は東高校の岡安恵美子さん、3位は中部高校の成田秀信さんと分け合いました。東高の池

田義夫さんが最高齢(86才)でした。

西高つゝじヶ丘同窓会東京支部の親睦コンペ開催を10月頃計画します。皆様のご参加をお待ちしています。西高校同窓会ゴルフアを随時募集しています。

東京支部ゴルフ会連絡先

13回生 三村寿雄 090-8513-4497

17回生 竹澤秀明 090-6797-7092

事務局活動報告

事務局長 齋藤 勝美(13回生)

(平成29年12月〜30年5月)

- ・事務局忘年会(12月17日)ビヤダイニング・ライオン汐留で実施。
- ・年度会計監査実施(1月31日)13回生森加代子氏。
- ・平成30年度学年幹事会は書面にて実施(2月中)。承認された内容は、「平成29年度会計報告」「平成

平成30年度学年幹事会は書面にて実施(2月中)。承認された内容は、「平成29年度会計報告」「平成

【平成29年度 つゝじヶ丘同窓会東京支部 会計報告】

自 平成29年 1月 1日
至 平成29年 12月 31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰入金	2,885,799	同期会補助金	20,000
年会費(振込) 445件	840,750	交流費	90,000
年会費(現金) 97件	194,000	旅費交通費	120,000
本部補助金	30,000	会議費	23,976
預金利息	20	通信費	194,840
17回 総会関連 収入	2,205,000	事務費	15,487
(会費 2,095,000)		会報関連費	306,514
(祝い金 110,000)		印刷費	38,454
		事務局費	120,000
		HP関連費	150,000
		17回 総会関連 支出	2,164,651
収入 計	3,269,770	支出 計	3,243,922
合 計	6,155,569	次期繰越金	2,911,647
		合 計	6,155,569

【繰越金内訳】

純日本郵政 2,893,077円
現金 18,570円
合 計 2,911,647円

以上会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。

平成30年1月31日

会計監査 13回生 森 加代子

会員の皆様へお願い

東京支部活動の充実のために
年会費(2千円)納入にご協力を

- ・30年度事業計画及び予算案です。また役員の変更はありません。
- ・事務局会議(3月3日)、本部・各支部・他校在京同窓会の出席者決定。・会報の投稿者へ依頼確認。
- ・会報20号最終編集会議(5月12日)。発行6月2日 2千200部、郵送千650部。

物故者

平成30年4月末までに事務局へご連絡を頂いた物故された会員です。ご冥福をお祈りいたします。

相馬敦子(高女31)、木下清子(高女32)、佐藤ユリ(高女32)、三野タケ(高女34)、黒田慶子(高女38)、荒木郁子(高女38)、小林ケイ(高女40)、湯川成子(女高2)、橋本力(西3)、竹ヶ原俊幸(西4)、鈴木靖(西6)、工藤宣(西

☆同期会開催補助(年一回)のお知らせ

東京支部では、同期会の活性化を目的に平成24年より、会員が同期会を開催した場合に、開催報告をホームページに掲載することを条件に年一回五千円の補助をしております。既に二桁の回生がこれを利用しております。

補助を受ける際、申請書を提出する必要があります。補助の申請書は東京支部ホームページからダウンロードすることが出来ます。

《編集後記》

○少し遅れましたが20号をお届けします。20号までの歴史は、制作法の進化の歴史でもあります。ワープロ時代(1号〜3号)、デザインがMacで制作した4号・5号。6号から素人の事務局員でPCのWordを使い制作が続いています。○今号は、大先輩から2本の長文な投稿・寄稿があり、ずっしりと感じさせる「会報」になったようです。次号以降にもご期待ください。

(若林郁雄 14回生)

皆様の、出来事や思い出、旅行などの「投稿」をお待ちしています。